



# Journal Vol.01 April 27th, 2026

～『自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

## ★令和8年度 群馬県立藤岡工業高等学校『教育ビジョン（重点目標）』策定！★

変化が激しく、将来の予測が困難な現代社会においては、一人一人が『主体性』を持ち、『自ら考え、判断し、行動していく力』が求められています。

本校では、人が誰しも生まれつき持っている『自分と社会をより良くしようと願う意志や原動力（Agency：エージェンシー）』を発揮し、自らの意思と選択によって学びを創り出し、それを実際の行動へとつなげていくことができる生徒の育成を目指し、教育活動の基本的な方向性を定めています。

また、生徒からは『充実感・達成感』を、保護者の皆様からは『安心感』を、教職員からは『やりがい・生きがい・充実感』を実感できる学校でありたいと考えています。すなわち、生徒が『藤工に入学してよかった』、保護者の皆様が『藤工に入学させてよかった』、そして教職員が『藤工の教師になってよかった』と実感できるよう、『well-being（ウェルビーイング）』の向上を意識した教育活動を推進してまいります。

『令和8年度 群馬県立藤岡工業高等学校 教育ビジョン（重点目標）』を策定するにあたり、OECDの『Learning Compass 2030』や『群馬県教育ビジョン』、『SAH事業』を意識し、策定しました。

下の『群馬県教育ビジョン』のパンフレットに『**試行錯誤しよう。失敗してもいいのだと知ろう。それが自分を強くしてくれるよ。**』という言葉があります。『**答えのない世の中**』なのだから『**失敗・うまくいかないこと**』は**想定内**なのです！そんなときに必要な力が『**Resilience（ねばり強く挑戦し、困難を乗り越える力）**』です！

さらに、この教育ビジョンは固定的なものではなく、例えばiPhoneのiOSのように、必要に応じて見直しと改善を重ねながら、よりよいものへと発展させていきたいと考えています。

この『藤工 BLAZE Journal』では、その歩みや取組について随時発信してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。 校長 星野 亨



第4期 群馬県教育振興基本計画  
群馬県教育ビジョン  
計画期間：2024年4月～2029年3月

**最上位目標** 自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う共生社会へ。ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける「自ら学ぶ」の育成。

相談してほしい、助けを求めたいんだよ  
「学ぶ」って楽しい  
「ナナメの関係」や「ゆるいつながり」も大事なんだよ  
リアルでも、デジタルでも色々なつながり方がいいよ  
知らないことを知るの楽しいよ  
社会をつくるのも変えていくのも「誰か」じゃなくて「自分」だよ  
動き出しても仲間がいるよ  
自分も、みんなも、幸せになろう

一 これからの時代を生きていく私たちに必要なこと 一  
自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す

人は、誰しも、生まれついて自分と社会をより良くしようと願う意志や原動力を持っている。

- 一人一人が、自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す「自律した学習者」であること
- 子どもと大人が、お互いを主体として認め合い、協力しながら社会を作っていくこと
- 地域と、学校と、家庭が、協力して学びの場を作り、共に学び続けていくこと

**現状の課題**

- 私たちの（子どもたちの）主体性や社会参画への意識が弱いとされるのは何故か？
- 良かれとの思いから、失敗しないように先回りして与えすぎる教育が、生まれつき持っていた自ら成長する力（エージェンシー）を損なっていたのではないか？
- これまで以上に先行きが不透明とされる時代に必要な力は、どんなものなのか？

2024年3月 群馬県教育委員会



## ★『OECD Learning Compass 2030』とは???

OECD が 2030 年に向けて定めた『主体的な行動を中心に、他者と協働しながら学び続け、ウェルビーイングを実現する力を育てる設計図』なのです！

① 目的：『ウェルビーイング (Well-being)』…すべての学びは、自分と社会の『しあわせ』の実現に向かっていきます！

② 実現に向けて動かす力：『エージェンシー (Agency)』…言い換えれば『主体性 (自ら考え、判断し、行動する力)』です！生徒自身が未来を切り拓く原動力として位置づけられています。

③ 支え合う関係：『コ・エージェンシー (Co-agency)』…生徒だけでなく、教師・仲間・地域とともに学ぶ関係性も重要です。一人ではなく、協働して未来を創ります。

④ 外側の要素：『知識・スキル・態度・価値観』を学びます！

⑤ 学びの循環：振り返りと改善 (ラーニングサイクル) …図全体は回転する構造になっており、『行動 → 振り返り → 改善 → 再挑戦』という学びのサイクルを表しています。

## ★『藤工 BLAZE for our well-being!』とは?★

① 『BLAZE』…校訓の後半『未来を拓け』の『拓く』を英語化する際に『道なき道を切り拓く』という意味の『BLAZE』という英単語を選択しました！『藤工スピリッツ』となれば幸いです！

② 『for our well-being』…最終目的地は『自分と自分の周りの人々』の『しあわせ』の実現です！

③ 『Agency (エージェンシー)』…『自分と社会をより良くしようと願う意思や原動力』や『自ら考え、判断し、行動する力』、『主体性』、『当事者意識』などいろいろな解釈ができます！生徒のみなさんには、そういう力を発揮し、②の『みんなのしあわせ』の実現を目指してほしいのです！

④ 『Resilience (レジリエンス)』…『ねばり強く挑戦し、困難を乗り越える力』です！『答えのない時代』『答えが1つではない時代』『変化が激しく、将来の予測が困難な時代』なのですから、うまくいかないことは当たり前です！したがって『行動 → 振り返り → 改善 → 再挑戦』というサイクルで何度でもやり直し、困難を乗り越える力を意識し、挑戦してみてください！

令和8年度 群馬県立藤岡工業高等学校 教育ビジョン (重点目標)

1 今年度の教育ビジョン (重点目標) の総称  
『藤工 BLAZE for our well-being!』

2 最上位目標  
『自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成』

3 策定の趣旨  
変化が激しく、将来の予測が困難な現代社会においては、一人一人が主体性を持ち、自ら考え、判断し、責任をもって行動していくことが求められています。  
本校では、人が誰も生まれつき持っている『自分と社会をより良くしようと願う意志や原動力 (Agency: エージェンシー)』を発揮し、自らの意思と選択によって学びを創り出し、それを実際の行動へとつなげていくことができる生徒の育成を目指します。その実現に向け、本校の教育活動の基本的な方向性を定めました。  
また、本校の校訓『希望を胸に 未来を拓け』を英訳するにあたり、『道なき道を切り開く』という意味を持つ “blaze” という英単語に着目しました。“blaze” には、「強く燃える炎」「激しく光る火」といった意味もあり、「情熱・エネルギー・力強さ」を象徴する言葉でもあります。  
そして、生徒一人一人が、『自分自身だけでなく周囲の人々の幸せへとつながる行動を起こしてほしい』という願いを込め、本校の取組を『藤工 BLAZE for our well-being!』と名付けました。

4 目指す学習者像  
① 生徒自らが『主語』となる学びをつくり、深めていく  
② 社会課題を『自分事化』して、行動に移す  
③ 『多様性』を尊重し、互いに認め合う  
④ 『対話と交流』により、信頼関係を築いていく  
⑤ 生涯にわたり『学び続ける喜び』を実感し、共有していく

5 取組事項  
本校の教育活動では、『自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成』を最上位目標に据え、次に掲げる事項について、実践を行います。  
① 授業改善 (個別最適化・主体性 & 非認知能力の育成・一人一台端末の効果的な利用等) に関すること  
② 特別活動 (学校行事・生徒会活動・委員会活動・部活動・有志活動等) に関すること  
③ 探究的な取組 (課題研究・アントレプレナーシップ教育等) に関すること  
④ 周知 & 広報活動 (HP・Instagram 等)

6 重点事項  
① 『Agency (エージェンシー)』を発揮する『自律した学習者』の育成  
② 『Resilience (レジリエンス: ねばり強く挑戦し、困難を乗り越える力)』の育成  
③ 『主体性 (≠自主性)』と『当事者意識』の育成  
④ 『生きる力』としての『認知能力』と『非認知能力』の育成  
⑤ 『自分とまわりの人々の well-being (ウェル・ビーイング)』の向上・維持  
⑥ ひとりひとりの『心理的安全性』の確保

7 生徒に身につけさせたい資質・能力  
① 工業高校生としての『確かな学力と高い技能』  
② 『自ら考え、判断し、行動する力』  
③ 『目標をもって主体的に取り組む力』  
④ 『問いを立て、工夫しながら課題に取り組む力』  
⑤ 『自分と向き合う力』『自分を高める力』『他者とつながる力』

藤工 HP & Instagram QR コード

\* 『OECD Learning Compass 2030』『群馬県教育ビジョン』『SAH 事業』等を参考に作成